



長崎大学で 大学院に 行くということ

高校生の皆さんの現在の目標は大学進学でしょう。大学の4年間(6年間)の先には、高等教育の最上位に位置し、修士や博士の学位を取得できる「大学院」が存在します。これからの社会で活躍する上で、大学院教育が大きな鍵を握ることはご存じでしょうか。高い専門性を身に付けた社会人としてキャリアを積極的に切り開いていくならば、大学院教育がしっかり構築された大学を選ぶことが重要です。

長崎大学の大学院には6つの研究科があり、今年4月には7つ目の研究科も設置されます。

今回の特集では、各研究科の実際の中身とシステム、そこで学ぶ大学院生の生の声を集めてみました。大学院についての基礎知識や進学のためのサポート、学び直しをしたい社会人向けのコースなど、気になる情報もご紹介します。

Graduate School of Global Humanities and Social Sciences
Graduate School of Education
Graduate School of Economics
Graduate School of Engineering
Graduate School of Fisheries and Environmental Sciences
Graduate School of Biomedical Sciences
School of Tropical Medicine and Global Health



大学院とは、独り立ちするための

思考訓練の場である

塚元和弘

理事(教学担当)

副学長

TSUKAMOTO Kazuhiro

学ぶのは最先端の専門領域
その思考訓練は武器になる

大学院は何のために行くのでしょうか。長崎大学大学院にはどのような特徴や魅力があるのでしょうか。塚元和弘理事にお話を伺いました。

「まず、大学院の仕組みですが、修士課程、博士課程、博士前期課程や博士後期課程など、混在しているように見えますね。大学の学部には四年制と六年制があります。長崎大学の場合、医学部、歯学部、薬学部の薬学科が六年制で、それ以外は四年制です。その後大学院があるわけですが、一般に四十二・三、つまり、四年間の学部、二年間の修士課程、三年間の博士課程が基本です。修士で終わる場合は修士課程といえます。また、

などを取り入れて、論理的に課題を解決することが出来ます。この思考訓練を身に付ければ、社会に出て解のない未知の課題にぶつかった時に、同じ思考・手法で挑んで問題解決に導くことができるのです」。「学位」にはそのような意味があるのですね。

「修士は英語でマスター、そして博士はドクターといいますが、ドクターコースの称号は「Ph.D.」といい、ラテン語で *Philosophiae Doctor*（英語では *Doctor of Philosophy*）で、直訳すると「哲学博士」です。最先端の研究を追求した果てには誰も知らない未知の領域、「我思う故に我あり」の哲学の世界に辿り着くわけです。既知の範囲から少しずつ論理的に真実を広げて、未知の結論を導き出します。すると周りがいろいろな方法で検証してくれま



つかもと かずひろ
1987年長崎大学医学部医学科卒業。1993年同大学医学研究科分子遺伝学博士課程修了。博士(医学)。長崎大学医学部職員(医療系)、米国ボストン大学先端バイオ技術センター研究員等を経て再び長崎大学医学部職員として着任。2004年より同大医歯薬学総合研究科教授。2017年より生命医科学域教授。同年10月より理事。専門分野は応用ゲノム科学、応用薬理学等。

これに博士課程を設けると、真ん中の二年は博士前期課程、その後の三年は博士後期課程となります。つまり、上に博士課程があるかどうかで呼び名が変わるのです。では六年制はどうなるかというところが、博士課程は四年間となります」。

「長い」という領域を少しずつ飛び出すことの繰り返しなのです。もちろん大学院で学んだ技術は古くなりますが、思考過程は変わらないので一度訓練を受けた人は応用が利きます。特に欧米で、Ph.D.を持っていると信頼されて要職に就けるのはその能力を重要視しているからです。将来は人工知能(AI)の台頭で職業事情も変わっていくでしょう。そんな時も思考訓練を経てさまざまな課題へアプローチできる人は異分野でも成功できますよ」。

社会に出る
スタートは遅くても
学位の持つ信頼性は強い

大学院では研究を通して人生で必要な思考方法を身に付けることができるのですね。しかし、四年制で九年、六年制で

大学院へ進学する決断は、その必要性にあると思いますが、そもそも学部教育と大学院はどのように違うのでしょうか。

「大学ではまず一般教養、次に専門の初級を学び、次第に専門性が上がってきます。ここまでは教科書に沿った講義十年という期間の長さを考える時、そこにかかる費用に不安もあります。

「学部比べて大学院ではさらに手厚い奨学金があります。給付型奨学金や新しい基金もできました。大学院生が後輩の学部生に教えるティーチングアシスタントや、研究の手伝いをするリサーチアシスタントなどの有償のアルバイトもあります。学部卒よりも社会に出るスタートは若干遅くなりますが、大学院で学位を取ると企業に入って昇進やリーダーへの抜くときに有利な場合が多く、生涯賃金も上がるといわれています。アカデミアの研究者はもちろん、海外で働く場合も特にその差は歴然としています」。

なるほど、長い目で見た方がいいということですね。では、長崎大学大学院の特徴や魅力は何でしょうか。

「総合大学である長崎大学には多彩な

が中心です。しかし大学院に入ると領域は最先端になります。そこでは思考訓練をします。まず、多くの文献を読んで最新の知識と研究の背景を学びます。その上で「なぜこうなるのだろうか、それはこういう理由じゃないか」と作業仮説を立て、実証するために、さまざまな調査や実験を重ねて自分の考えを論理的に展開していきます。一連の検証過程は学部でも行いますが、いかにせん量が圧倒的に足りません。大学院では、理系の場合は実験も自分でデザインしますし、文系の場合は多くの学説の中から自分なりの新たな仮説を立て、調査を行って論理的に実証します。最後に論文を書くことで思考は濃縮されます。その結果として、できた論文が審査されて学位が授与されます。重要なのは思考訓練で、複眼的な思考力や俯瞰的な視野、先生や先輩の意見

研究科があり、相互に連携した学際的な動きが活発で新たな知見に出会えます。中でも世界的に注目されてきた分野として、感染症と放射線医学、近年では水環境が挙げられます。それもキャンパスの中だけでなく世界各地に研究拠点をもち、研究と教育を進めています。感染症では、ケニア、ベトナム、タイ。放射線医学では、ペラルーシと福島。水環境は、ケニア。そしてグローバルヘルスで、英国との連携が実現しました。その上、すべての研究科が窓口となって世界中の大学や研究所との学術交流も活発に行っており、海外留学や共同研究が実現する基盤が整備されているのも魅力といえます」。

多くの可能性を秘めた長崎大学大学院。各研究科がどのようなプログラムやコースを持ち教育と研究を進めているのか、具体的に紹介します。

長崎大学大学院の概要

6つの研究科と今年4月からスタートする1つ、計7つの研究科があります。修了年限は1年から5年までと専攻やコースによって異なりますが、中には長期履修制度を採用しているところもあります。所定の単位を修得し、論文審査と口頭試験に合格すれば修了となり、修士課程、博士前期課程であれば修士号、博士課程、博士後期課程であれば博士号の学位が授与されます。

長崎大学の大学院 (2018年4月以降)

多文化社会学研究科	(修士課程)
教育学研究科	(専門職学位課程)
経済学研究科	(博士前期課程、博士後期課程)
工学研究科	(博士前期課程、博士後期課程、博士課程(5年一貫制))
水産・環境科学総合研究科	(博士前期課程、博士後期課程、博士課程(5年一貫制))
医歯薬学総合研究科	(修士課程、博士課程、博士前期課程、博士後期課程)
熱帯医学・グローバルヘルス研究科	(博士前期課程、博士後期課程)

※教育学研究科のみ専門職大学院で、高度専門職業人の育成に特化した専門職学位課程があります。

大学院で学ぶコスト

大学院進学にはどの程度の費用がかかるのでしょうか。国立と私立でも異なりますが、長崎大学大学院の場合、入学金は282,000円、授業料は535,800円です。決して安い金額ではありませんが、奨学金制度を活用することもできます。

日本学生支援機構による奨学金制度には、第一種(無利息)と第二種があり、月額50,000円から150,000円の貸与となります。

また、長崎大学独自の給付型奨学金もいくつかあります。海外留学奨学金は60,000円から100,000円、多文化社会学部海外短期留学奨学金、医学部奨学金、医学部研究医コース奨学金、留学生のための奨学金などのほか、授業料免除の減免措置もあります。詳しくは各研究科へお尋ねください。

大学院生の1日

大学院生の研究科での一日は、研究活動が主体となり、生活の場は研究室となります。修士(博士前期課程)1年次では午前中に講義があることもありますが、2年次以降は朝から夕方まで研究室での実験や、フィールドでの調査などに充てられます。多くの院生は自分のデスクとパソコンを持っており、時間に縛られることなく自由裁量で研究を進めています。研究や実験はチームで行う場合と個人で進める場合があります。ある院生は、その日にやるべき課題や目標を細かく設定して進行管理をしているのだそうです。また、ある院生は必要な分析機器が他の研究室や施設と共用となるため、比較的使いやすい休日に作業をするとのこと。修士も博士も、大きな研究プロジェクトの研究協力者になることもあります。



1

日本でグローバルヘルスを 学ぶなら長崎大学が 最良の選択



KITA Kyoshi

ロンドン大学と

長崎大学の

ジョイントディグリーが実現

「GOGO LIN（国連／国際機関）」という言葉を知ったことがありますか？国連や世界保健機関（WHO）において、日本は拠出金こそ多いものの、そこで働く日本人が少ないのだそうです。今、国を挙げてこの分野で活躍できる人材育成に乗り出しています。二〇一五年度に設置された熱帯医学・グローバルヘルス研究科は、長崎大学の強みである熱帯医学や国際健康開発などのグローバルヘルス領域の人材育成の中心でもあります。北潔熱帯医学・グローバルヘルス研究科長のお話です。

とお聞きしました。

「はい、こちらは今年四月の設置（学生受け入れは十月）を予定しております。しかも、それだけではありません。二つある専攻のうち一つは、グローバルヘルス領域において世界トップレベルといわれるロンドン大学衛生・熱帯医学大学院との国際連携専攻となります。この専攻の修了時にはロンドン大学衛生・熱帯医学大学院と長崎大学の両大学で認められた学位『ジョイントディグリー』が授与されます。ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院の学長はエボラウイルスを世界で初めて発見したピーター・ピオット博士で、今回の設置にあたっては全面的に協力をいただきました」。

素晴らしい！これはグローバルヘルス領域で研究者を目指す世界中の人々から注目されそうです。四つ目は何でしょう。

小林さんとアテイトさんは同じ国際健康開発コースの院生同士、小林さんはアテイトさんのチューター留学生の学校生活のアドバイザーを務めています。



「長崎大学は、これまで五十年以上にわたり熱帯医学の教育や研究に尽力してきましたが、全国的にこの分野の人材育成が遅れていたことから二〇〇六年度に医歯薬学総合研究科の中に熱帯医学専攻（修士）を、また二〇〇八年度には国際健康開発研究科を設立しました。その後、二〇一五年度に熱帯医学専攻と国際健康開発研究科を発展的に統合した形で、新しく熱帯医学・グローバルヘルス研究科グローバルヘル

ス専攻を開校しました。臨床経験のある医師を入学資格とする一年間の熱帯医学コース、最大八カ月に及ぶ長期海外研修が設定されている国際健康開発コース、フィールド調査や研究室での実験結果を解析して健康課題の改善対策につなげる研究者養成を目的としたヘルスイノベーションコースがあり、それぞれ特色のある教育と研究を行っています」。

「研究科立ち上げとともに研究科長に就任した私には四つの宿題があり、今それを一つ一つ実現している最中です。まず昨年十月には、東京でサテライトキャンパスがスタートしました。この研究科に通いたいのが東京を離れられないといった、グローバルヘルス分野での貢献を志す社会人のためのものです。遠隔講義を聴講しながら休日や夜間に通うサテライト機能を持った施設で、東京の国立国際医療研究センター内に開設しました。厚生労働省管轄機関の敷地内ですが、省庁の垣根を越え、センターの先生方とも連携して大学院教育ができることあって、話題になっています」。

その上、博士後期課程が設置される



短期フィールドワークで、フィリピンにおいて手洗いの指導をしている様子。

「日本の場合、大学院での研究が重要視される一方で、当人には金銭面の負担もあり、どうしても人生設計に影響が出てしまいます。また、女性の都合、研究を優先させると結婚や出産を

とが今後の課題です」。

立場も背景も違う

院生同士が

議論を通じて相互理解

ここで、大学院に優れた人材を集めるために、研究者の環境や生活をサポートする新たな仕組みがあれば、リサーチマインドを発揮して研究にまい進できます。キーワードはグローバルヘルス。オール長崎大学で知恵を結集し、さらにレベルの高い大学院をつくるこ

ろです。こちらも今後の動きが気になることが今後の課題です」。

グローバルヘルス総合研究棟で、院生二人にお会いしました。国際健康開発コース一年の小林灯里さんとアテイト・プロスパリーさんです。看護師免許を持つ小林さんは青年海外協力

隊の一員として二年間アフリカのザンビアで活動した後、この大学院に入学しました。「ザンビアでは草の根レベルで地域住民のケアをしてきましたが、もっと俯瞰的に物事を見てシステムを整えたり資金調達をしたりという、地域全体にアプローチできる専門的な知識を得るために来ました。今は基礎を学んでいます。特に他のコースとも一緒に授業が多く、医師や研究者、行政関係者など立場の違う方々の英語によるディスカッションが面白いですね。しかも半分は留学生なのでグループワークの進め方や着眼点も違い、勉強になります。将来的にはまた途上国で働きたいと考えています」。

アテイト・プロスパリーさんはガーナからの留学生。本国では保健局で結核とマラリアの担当官として働いていました。「グローバルヘルスや感染症について学んでいます。二年次に国際機関などでインターンシップができるプログラムも素晴らしいと思います。卒業後は研究成果を国の政策にも生かしていきたいです。長崎大学はアフリカでの医療活動や研究の歴史が長く、成果を地域に還元することを理念に持っており、そこそが研究の本来の使命だと思います」。

世界基準の熱帯医学・感染症分野。その特色を生かした人材育成が、いよいよ本格的に始動しました。

学部卒業後、多くの学生が大学院へ進学

長崎大学大学院の研究科の中でも、定員二百四十名と一番大きい工学研究科。他学部 비해大学院へ進む学生が多いのが特徴です。清水康博工学研究科長にお話を伺いました。

「近年、大学の工学教育については、既存の教育体制に加えて、学部・博士前期課程を合わせた六年一貫制を構築する可能性が議論されており、文部科学省の『大学における工学系教育の在り方に関する検討委員会』で提案されました。そのような中で、長崎大学ではすでに二〇一一年度から博士前期課程を意識した六年一貫的な教育プログラムを組んでいます。工学部は、機械

より高い研究力と実践力を身につけるための多彩なコースを用意

工学、電気電子工学、情報工学、構造工学、社会環境デザイン工学、化学・物質工学という専門分野別の六コースの教育プログラムが編成されており、二年次までに基礎をしっかり学び、その後、専門を修得していきます。四年次で研究室に配属されると、自身の将来の専門分野をより絞り込む準備に入り、大学院への進学を決めた学生は博士前期課程の講義の先取り履修も可能になります。学部卒業後に進む大学院には、さらに専門性を深めるために学部と同じ六コースの研究プログラムが用意されています」。

大学院への進学率は三十三〜六十八パーセント、学部のコースによってばらつきがありますね。「情報工学、構造工学、社会環境デザ

イン工学コースのように、社会の動向や景気が就職事情に反映されやすい分野では、学部卒で就職する学生もいます。逆に、機械工学、電気電子工学、化学・物質工学コースのように、半数以上が進学する分野の大学院修了生は、より高い専門性を身に付け、企業の実践力として歓迎されています」。

グローバル環境で学ぶ「水」と「エネルギー」

学部から続く六つのコースの他に大学院ならではのコースもあり、そちらに進むこともできます。国際水環境工学コースもその一つ。水をめぐると問題は今や世界のグローバルスタンダード。コース長の夢田彰秀教授によれば

攻という五年一貫の博士課程も特徴的です。専攻長である植木弘信教授のお話です。「この専攻は、次世代エネルギーシステムと先端機能物質を創出する分野で先導的に活躍できる研究者を養成します。現代社会において喫緊の課題であるエネルギー問題について、新エネルギーの創出、貯蔵デバイスの開発、供給機器の創成、高効率燃焼などの切り口から深く掘り下げていきます。同時に広い視野を持つ研究者を養成するため、海外の国際的研究機関での学外研究も義務付けられています」。

この専攻の先端機能物質創製コース二年の二ノ方亮さんにもお話を伺うことができました。「私の専門は有機金属化学です。有機化合物の基本となる炭素骨格を新しい手法で効率的に構築する研究をしています。幼少期から新しい物や事が大好きで発想次第で無限に楽しめたことと、新しい反応を見つけた瞬間の感覚が重なったことが、研究職を意識し始めたきっかけです。三年次に合成化学が専門の木村正成教授と出会って、先生のような研究者となることを目標になりました」。二ノ方



二ノ方さん(手前)の実験の様子。「化学実験は簡単には成功しませんが、新しい反応を見つけた時は鳥肌が立つほど興奮しました。発想次第で知的好奇心が刺激されることが、研究の醍醐味です」。

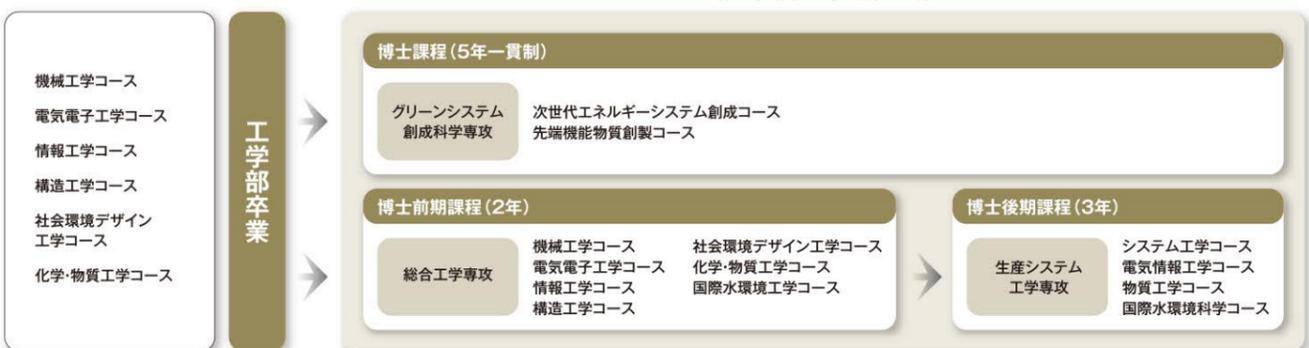
さんはこのコースの特色である海外での学外研究でスペインに半年間留学。現地の研究者たちとの共同研究が大きな糧となりました。

また、情報工学コース博士前期課程二年の田原あかねさんは、医学部との連携で医療分野のものづくりを進める「ハイブリッド医療人養成コース」にも関わり、内視鏡カメラの自動制御プログラム開発を進めています。「四年次で見つけた自分のテーマをもっと深めるために進学を決めました。学部では基礎を学びますが、大学院に進んでからは使う数式や手法など専門性が違います。やりがいもありますよ」。国際学会でも論文発表したそうです。

その他、各コースを横断する形で大学の連携によるインフラストラクチャー人材育成「世界展開力強化事業」も特徴的です。この事業では恵まれた条件で韓国の成均館大学校や中国の山東大学に短期留学して、道路や橋梁、トンネル、上水道・下水道、コンクリートなど、建設分野に関連したインフラ維持管理技術も学べます。

コースもプログラムも多彩なメニューがあり、海外研修の機会もある工学研究科では、実践力を磨いて研究者・開発者・高度エンジニアへの道を歩む人材を次々と育てています。

〈大学院工学研究科〉



昨年7月にイタリアのトリノで開かれた工学系の国際学会で論文発表を行った田原あかねさん。「英語は苦手でしたが、専門用語を自分で調べているうちだんだん上達しました。発表後の質問にも答えられて、いい経験になりました」。



SHIZUMA Yasuhiro

工学研究科長

清水康博

医歯薬学総合研究科の中の 2つの共同大学院

災害・被ばく医療科学共同専攻

〈長崎大学+福島県立医科大学〉

災害・被ばく医療科学共同専攻は、東日本大震災の折に放射線災害に対応できる人材が国内に不足しており危機管理が十分にできなかった反省を基に2016年度に開設されました。被ばく医療学・放射線リスク学で実績を持つ長崎大学と、東日本大震災を経験し災害医療分野での実績を持つ福島県立医科大学が、それぞれの大学の特徴を生かして被ばく医療科学分野に精通した人材育成を行っています。看護師と保健師を対象とした保健看護学と、警察官、消防士、診療放射線技師、留学生を対象とした医科学の2つのコースがあり、それぞれ世界のトップレベルの講義と川内村復興推進拠点などを活用した実習を行います。今後起こり得る「次の複合災害」に対応できる人材が、この共同大学院から育ち始めています。



川内村実習において、原爆後障害医療研究所のジャック・ロシャール教授と留学生が、川内村の住民と被ばく線量について実際に測定したデータに基づいて議論している様子。

先進予防医学共同専攻

〈長崎大学+金沢大学+千葉大学〉

待たなしの高齢化社会を目前に、病気にならないための「予防医学」、なかでも発病前段階から罹患を予測して未然に予防する「0次予防」の研究が始まっています。この共同専攻では、住環境や社会環境といったマクロ環境とゲノムなど遺伝子解析を、情報工医学のデータベースを活用しながら、集積や標準化を行っています。教育もユニークで、各大学が持っている強み(千葉大学はマクロ環境評価、金沢大学はオミクス解析、長崎大学は情報工医学)を相互に学び合いながら、最終的には各大学が持つ環境の違う医療検診データ(住民コホート)を解析して関連付け、発病の可能性を低減させていく研究に結実させます。



長崎大学は離島の健診と医療のデータを蓄積しています。その他、千葉大学は都市部の、金沢大学は能登地域などへき地の医療データを持っており、比較検討できます。



長谷川さんは子ども向けのワークショップや女子高校生に理系の研究の魅力を伝える「リネジョセミナー」の講師を務めました。「高校生と話していると、なりたい職業が限られている気がします。世の中には多くの仕事があります。自分の興味のアナテナ感度を高めて情報を探してほしいですね」。

認知症創薬研究という七つのユニットを重点的に支援していきます。各ユニットに所属する学生は、研究も講義もユニットで提供され、新たな枠組みで学ぶことができます。

失敗を恐れず、深く思考する研究者へ

二人の院生にもお話を伺いました。

江藤諒さんは、生命薬科学専攻博士後期課程二年です。「私の専門は人工アミノ酸の合成と構造の研究です。細胞膜を貫通させて薬剤分子を内側に届け

るためのドラッグデリバリー分子に応用できるツール開発の基礎研究です。医学、歯学、薬学が統合された研究科ならではのメリットである、異分野の研究者の意見を聞けることや、患者さんのサンプルを取り寄せやすいことを日々実感しています」。

長谷川光子さんは、熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラムを専攻しています。「寄生虫感染症対策の国際プロジェクトに参加して、寄生虫の駆除に成功した日本各地の小学校や幼稚園の現状を把握するため検便調査を行っています。一度は医

療機器メーカーに就職したものの、開発途上国で熱帯病に苦しむ子どもに立ちたいという夢をかなえたくて、大学院に入りました。調査は苦労の連続ですが新たな発見もあり、深く思考する時間が増えましたね」。

医療の世界は日進月歩ですが未解決の課題も多くあります。問題を発見し、仮説を立て、実験や研究で解明していく手法とタフな精神力を早いうち

に身に付けておくことは、必要不可欠なのです。

教員の所属も 「生命医科学域」に統合

医歯薬学総合研究科は全国でも珍しく、それまでの医学、歯学と薬学の各研究科が一体となった研究科です。二〇〇二年度に設立され、その基盤をさらに進んだものにするため、昨年四月から新たな動きがありました。尾野村治医歯薬学総合研究科長にご説明いただきました。

なりました。これまでは「医歯薬学総合研究科〇〇専攻〇〇講座〇〇分野教授」という肩書だったのが、垣根を取り払って「生命医科学域」に統一したのです。これによって教員の機動的な配置が可能となり、教育研究の活性化が期待されます」。

医歯薬学総合研究科には七専攻がありますが各学部からどのような形で進学するのでしょうか。

学科の場合は、四年の学部を卒業した多くの学生が進学します。医歯薬学の分野では、研究者の場合、博士の学位がないと専門家として一人前に扱われない、特に海外で議論できない、といった場面が多々あります。先導医療教育研究機関としてしっかりした受け皿を整えています」。

研究の面でも新たなユニットが形成されているのですね。

「医学部、歯学部や薬学部薬学科の学生は、六年間の学部教育を経て国家資格を取得します。その後そのまま大学院に進学する場合もありますし、研修医(薬剤師)として歩み始めてから新たな課題解決のために進学するケースもあります。四年制の医学部保健学科の学生も同様です。また、薬学部薬科

「はい。長崎大学の強みである、熱帯医学・新興感染症と放射線災害医療という二つの研究に続く、国際的に競争力のある第三の柱となる、先導医療教育研究コアを形成します。当面は、移植再生医療、アカデミア創薬、硬組織疾患基盤研究、革新的ながん治療予防研究、感染症疫、先進予防医学研究、

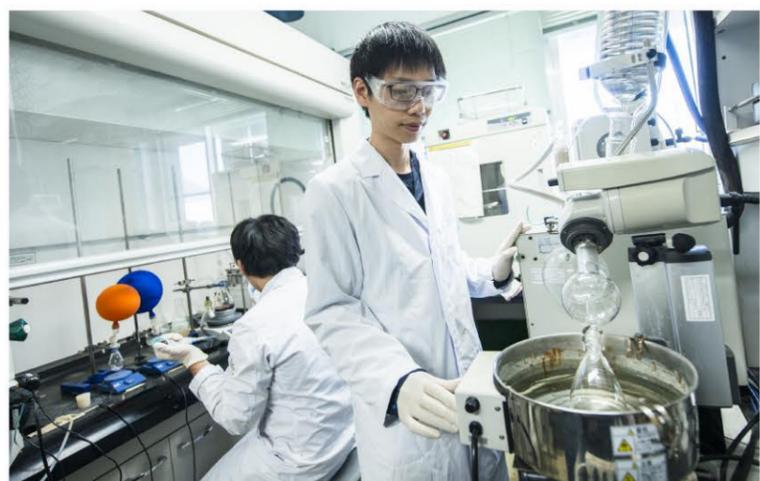
全国的にも珍しい 医学、歯学、薬学の総合研究科で 世界をけん引する研究が可能に



3



研究室で実験をする江藤さん(右)。「研究は失敗がつきものです。最初の頃は結果に一喜一憂していましたが、最近失敗を恐れなくなり、むしろ一つ一つの失敗から成功の芽を探し出すことができるようになりました。一度始めたことは一定の成果が出るまでやめるわけにはいきません。将来はアカデミアで働くことが目標です」。



世界有数の漁場
東シナ海をはじめ
フィールドは世界各地

互いに密接に関わり合う、海、食、環境と社会についてさまざまなアプローチから研究しているのが、水産・環境科学総合研究科です。武藤鉄司研究科長にお話を伺いました。

「水産・環境科学総合研究科は水産科学と環境科学が融合した教育研究組織ですが、その設立の背景として海洋の保全と社会科学の関係が挙げられます。例えば、重要なフィールドである東シナ海は、世界有数の漁場であると同時に世界でも最も汚染問題が深刻な海域だといわれています。その実態を解明し、かつての環境を回復させるためには、周辺諸国や地域相互の連携が不可欠で、その解決には社会科学の知恵

水産系と環境系が
融合した研究科は
全国で長崎大学だけ

が求められます。ですから環境科学系教員の半分は社会科学系の研究者なのです。そもそも一つの大学の中に水産学部と環境科学部があること自体が全国的にも非常に珍しく、そのメリットを生かした学際的な研究を行っているところが私たちの研究科の最大の特徴でもあります。研究のフィールドは、国際協力機構（JICA）との支援事業が展開されているベトナムをはじめとする東南アジアやアフリカなど多岐にわたります」。

博士前期課程は水産学専攻と環境科学専攻があり、博士後期課程は環境海洋資源学専攻がありますが、その他に5年一貫制の博士課程もありますね。

「海洋フィールド生命科学専攻ですね。これは五年かけて国際的に活躍できる海洋フィールド研究者を養成する専攻です。海には、海水それ自体の季

節変化やそれに伴う生態系の変動など固有のサイクルがあり、研究には時間がかかります。数年かけてデータを収集し研究成果をまとめていきます」。

研究科には他大学から来る学生もいます。東京大学からこの研究科に入学した村瀬偉紀さん（環境海洋資源学専攻環境科学コース一年）のお話です。「水温や餌などの環境条件の勾配が異なる中で、鮎の生態が地理的にどのように変異するのか調べています。地元漁協にお願いするほか、自分で網を持って川へ入ったり、一日中鮎の解剖をしたりと体力勝負です。一方で、国際学会へも積極的に足を運び、ネットワークを構築する努力も欠かせません」。

留学生も多く在籍しています。中国の大連海洋大学修士課程を修了し本研究科博士後期課程に入学した劉金洋さん（環境海洋資源学専攻水産科学コース



MURTO Tetsuji

一年)もその一人。「私はねり製品の品質改善のために、日本の水産会社と共同で魚肉中のタンパク質分解酵素の研究に取り組んでいます。得られた研究成果は国際学会で発表し、実験や論文作成など充実した研究生活を送っています」。

研究科内にはアジア環境レジリエンス研究センターが設置されており、レジリエンス(回復力)をキーワードとするプロジェクトも進められています。



昨年末にも、乗船実習で韓国へ行き、釜慶大学校での研究発表、現地の学生や教員との交流のほか、現地の魚市場や研究所(韓国海洋科学技術院(KIOST))の見学をしてきたそうです。

経済学研究科

学部卒学生だけでなく
社会人の学び直しにも
しつかり対応

MBAだけでなく
九州でも珍しく
DBAが取得可能

ビジネスマンのプロフィールをよく目にする「MBA」。これは修士(経営学)(Master of Business Administration)のことです。経済学研究科には、このMBAを取得するための経営学修士コースがあります。岡田裕正研究科長のお話です。



MBAコースでは国際会計、研究コースでは現代会計特論が同時に行われている徐陽教授の講義の様子。

「経済学研究科の博士前期課程には、研究者養成を目的とする研究コースと、高度専門職業人の養成を目的とする経営学修士(MBA)コースの二つがあり、学部卒の学生だけでなく、一般社会人や留学生も多いですね。研究コースは昼間中心で、日本アジア経済関係、経済発展・金融組織、企業行動・経営管理、数量経済モデル分析研究という四つのクラスター(科目群)に分かれており、学生は自分の研究テーマに合わせて、修士(経営学)か経営学)を選ぶことができます。経営学修士コースは、例えば、マネジメント、アカウンティング、ファイナンス、アジアビジネスの科目群から、自分の職場の課題に即した専門知識を、主に二年次の平日夜間と土曜日に履修することで、二年次では、論文執筆に集中できるようにするため、仕事を持った社会人も自分のペースで研究できます。また、希望すれば中

国の西南財経大学や台湾の東華大学とのダブルディグリープログラムを履修することもできます」。

博士後期課程の経営意志決定専攻も特徴的です。

「この専攻の理念は、合理的で迅速な意思決定能力を身に付けた組織のリーダー、あるいはその候補者を育てることであり、留学生と日本人では出願資格が異なりますが、修士の学位に加えて、日本人には一定の就業経験も求めています。社会人に配慮して、土曜日だけで講義や研究指導を行っているので、福岡県から通学した人もいました。しかも、九州では珍しくDBA(Doctor of Business Administration:経営学博士)を取得できます。修了生の中には、組織の後継者、銀行の支店長クラス、起業した人、大学教授になった方もいますよ」。

昨年度から、経済学研究科修了生が中



OKADA Hiromasa

心となった勉強会も始まりました。発起人の一人である小川勇人さん(二〇一四年度修了生)のお話です。

「社会人学生は大学院では学ぶ側ですが、一方では各分野の最前線で働く問題意識の高いプロフェッショナル人材として、自らの分野で実践知を持っています。その優れた実践知を共有する新たな学びとして、修了生と在校生の人的ネットワークを構築しました。勉強会では、経済学部の先生を講師として招き、同窓生の実践知と先生方の理論、原理原則について議論します。先生方の優れたコンテンツは大学の資源ですが地域に充分には還元されていません。そこで一般社会人、学生にも公開することで新たな出会いや知見を得ることもできます」。

勉強会の参加者からの評判も上々で、今後も継続していく予定だそうです。

*ダブルディグリープログラムとは2つの大学院から学位が授与されるものです。経済学研究科の場合、コースによって対象となる大学院が異なります。詳しくは経済学研究科のウェブサイトをご参照ください。



6

実務家教員の直接指導で プロの中のプロの 先生を目指す

教育学研究科長
松元浩一



MATSUMOTO Koh-ichi

長崎県は教職大学院から
教員採用試験を
受けると有利

大学院の研究科は通常「修士課程」や「博士課程」。しかし教育学研究科の場合は「専門職学位課程」といいます。松元浩一教育学研究科長にお話を伺いました。

「あえて専門職学位課程としているのは、この研究科が研究者より小中高等学校のプロの先生を養成する教職大学院だからです。教職実践専攻の三つのコースは、担任として授業運営や学校行事への子どもたちの意識付けに主眼を置いた学級経営・授業実践開発コース、教科の指導法に絞った教科授業実践コース、そして子ども理解・特別支援教育実践コースがあります。いずれも学部卒後に入る学生と学校での教職



実習でぶつかる課題について、院生が交代でプレゼンテーションをするクロスセッション。実務家の教師も輪に加わります。右が生島さん。

経験のある社会人が共に学びます。校長、教頭、指導主事経験者など百戦錬磨の実務家の先生方の直接指導を受けながら、専修免許を目指します」。

専修免許を取ると学校での登用や昇進も有利になるといいます。研究科ではどのようなことを学ぶのでしょうか。「例えば、台風時などの危機管理の授業もありますし、配慮を要する子どもへの向き合い方や専門知識など、実際の学校現場と同じことを前倒して学びます。学部卒ですぐに学校に飛び込むのは不安という人でも、自信と余裕が生まれますよ」。

心強いです」。また、教員採用試験に通っても大学院の二年間は採用が猶予されること、特に長崎県の場合は、大学院から教員採用試験を受ける場合に五点加点されるなど、全国的にも珍しいシステムもあり、大学院進学の内容も整っています。

ちなみに、教育学研究科では来年度から「管理職養成コース」もスタートするそうです。

「長崎県では団塊世代の大量退職で学校運営の核になれる人材が急激に不足しており、その養成も急務です。こちらは社会人への受け入れですが、このように教育学研究科は地域におけるニーズにも迅速に対応しながら教育と研修を両輪としています」。

教育委員会や学校と太いパイプで連携している教育学研究科。即戦力となるタフな人材が育つ基盤が整っています。

多文化社会学研究科

Graduate School of Global Humanities and Social Sciences



7

文化・宗教・国家など 問題群解決の道を見出せる 専門的教養人を養成

多文化社会学研究科
首藤明和



SHUTO Toshikazu

長崎と三菱の縁が実を結び
東洋文庫とも提携

今年四月から設置される多文化社会学研究科は、長崎大学初の人文社会学系大学院です。首藤明和教授（研究科長就任予定者）にお話を伺いました。

「遺伝子の解析や人工知能（AI）など理工系の知識や技術の進化に伴って、リスクも不可避的に増大しており、それゆえ同時に、リベラルアーツ（教養）の重要性も見直されつつあります。そもそも人文社会学系学問が用いる概念の多くは、十八〜十九世紀にかけて成立したものが多く、二十一世紀の諸問題にうまく対応できていません。文化や宗教、科学や技術など、ここから派生する開かれた問題群にアプローチしていくためには、認識や存在にまで立ち返って学問の基礎自体を再編しなければなりません。こう

した課題に、私たちは多文化社会学という新しい学問の創設を通じて取り組んでいます。長崎大学では、二〇一四年度に

多文化社会学部を創設し、確かな語学力と専門的な知識を両輪とするグローバル人材育成に努めてまいりました。これを発展的に継承するのが多文化社会学研究科です。学部卒の学生だけでなく、年齢を重ねて深まった問題意識を持つ社会人や、多様なバックグラウンドを持った留学生にも入っていたいただき、共に議論しながら新しい学際的な学問をつくっていきたいですね」。

掲げている五つの科目群は、グローバルスタディーズや政策科学、環海日本長崎学・アジア研究、言語多様性に加えて、核軍縮・不拡散もありますね。

「人文科学系と自然科学系の文理融合を図り、人道的、安全保障、経済などの諸問題について理論と実践の両面から研

究を深めます。将来、国際機関や政府のシンクタンクで活躍できる人材の養成を目指します」。

もう一つ、素晴らしい研究機関とも連携するというニュースも聞きました。

「はい。国立歴史民俗博物館や東京の東洋文庫との提携です。東洋文庫は三菱財閥の三代目当主だった岩崎久彌が創設したもので、東洋学分野では日本最古・最大、世界でも五指に入る研究図書館です。東洋文庫の研究者で世界の第一線で活躍する方々の講義や研究指導を受けることができます。長崎と三菱は歴史的に深い縁があり、東洋文庫の研究者の皆さんも、長崎や平戸の歴史的特徴に大きな関心をお持ちです。多文化社会学部創設からの交流もあり、このたびの研究科設置にあたっては、人材養成を通じて東洋文庫の研究資源を社会に還元したいとお申し出をいただき、連携の話がまと

まりました。まずは四月から修士課程が始まりますが、二〇二〇年度をめどに博士課程の設置も目指しています。先々は博士課程の院生は夏休みなどを活用して東洋文庫の貴重資料を活用した研究も可能になるよう、調整を進めています」。

二十一世紀のリベラルアーツが必要とされている時代にできた人文社会学系研究科。ここからどのような研究者が育っていくのか、期待は膨らみます。



※公益財団法人 東洋文庫
三菱財閥の基礎をついた岩崎弥太郎の長男岩崎久彌(3代目当主)が1924年に東京駒込に創設した研究図書館。蔵書数は約百万冊。その中には、国宝5点と重要文化財7点も含まれています。一部は一般公開や東洋学講座も行われています。
<http://www.toyo-bunko.or.jp> 写真は東洋文庫ミュージアムの一隅を占めるモリソン文庫の書庫。